

公立大学法人 京都市立芸術大学（学長：鷲田清一）は、2016年8月4日（木）～8月14日（日）まで、京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA にて、京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展として「ART であしあと 7 正方形の扉から—版画専攻共同制作 “PRINTLAB”」を開催いたします。

学生と教員の関係から生まれる学びの足跡を、作品を通して紹介する「ART であしあと」の第7回は、本学芸術資料館の収蔵品より、本学の版画専攻において毎年制作されている共同制作 “PRINTLAB” を紹介します。

本学における版画教育は1963年にはじまります。当時はまだ正規のカリキュラムはなく、西洋画科に吉原英雄・古野由男を迎え、集中実技として行われました。やがて60年代末の学生運動を受けて大学の改革案が作られ、同科の中に版画教室が設置されたのが1970年です。そして大学が沓掛に移転した1980年からはそれまで西洋画専攻の中におかれた版画教室が版画専攻として独立して今に至ります。本学の半世紀に及ぶ版画教育の歴史は、京都の版画創作の拠点として重要な役割を果たしました。

沓掛校舎に生まれた版画専攻では、やがて授業の中にポートフォリオの制作を組み込むようになります。ポートフォリオとは、本来書類を入れる平らなケースのこと。版画のシートをひとつにまとめた組作品をいいます。はじめは、それぞれの学生が自分の作品で組作品を作っていたのですが、やがてひとつの主題のもと、卒業生・修了生が共同制作するようになります。現在大学に遺る最も古いポートフォリオが8枚のシートで構成される“音”で、1994年の卒業作品として買い上げられました。それまで、大きさがばらついていたものを25cm四方に統一して、ひとつの規格の中で工夫を競うようになります。1996年からは大きさのみならず装幀も規格化された“PRINTLAB”のシリーズが始められます。ユニークな制作の主題は、作者たちが相談して決定します。意外な主題をどのような切り口で自分自身の表現に変えていくのか、小さな世界ですが実に多様です。“PRINTLAB”は現在も継続して制作されており、毎年芸術資料館の資料として登録されています。版画専攻の学生の作品は、ほぼ全員のものが、学校に保存されていることになります。

版画に興味を持たれる方はもちろん、多様なテーマと多彩な技法による視覚的な面白さは、どなたにも楽しんでいただけるものと思います。皆様どうぞごゆっくりご鑑賞ください。



2012年度展示風景「押し入れ」

開催概要

展覧会名称：京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展「ART であしあと 7 正方形の扉から—版画専攻共同制作 “PRINTLAB”」

主催：京都市立芸術大学 企画：京都市立芸術大学芸術資料館、京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

協力：京都市立芸術大学美術学部 平成28年度前期「調査研究・企画運営演習 A」受講生

会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA（住所／京都市中京区押油小路町 238-1）

会期：2016年8月4日（木）～8月14日（日）11:00～19:00（最終入場 18:30 まで）月曜休館

入場：無料 お問い合わせ：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

Tel: 075-253-1509 E-mail: gallery@kcuu.ac.jp 公式サイト：http://gallery.kcuu.ac.jp